

提言 1 主体的・対話的で 深い学びを実現する 単元デザイン	☐児童生徒が、単元のゴールを見通しをもって取り組んでいたか。 教師は ☐身に付けさせたい力（資質・能力）・単元のゴールを確認したか。 ☐児童生徒の実態に応じて単元のどこで何をどのように学ばせるかを工夫できたか。 ☐単元のゴールを児童生徒と共有し、学習の見通しをもたせることができたか。
提言 2 学習意欲を高める 授業	☐児童生徒が、課題に興味をもって主体的に取り組んでいたか。 教師は ☐学習意欲を高める導入や問いを引き出す発問・学習課題の工夫ができたか。 ☐児童生徒と「めあて」の共有ができたか。
提言 3 児童生徒が主体者となる 授業 (心が動く学び)	☐児童生徒が、頭の中をアクティブに働かせていたか。 教師は ☐多様な言語活動や学習形態等、児童生徒が学びの主体者となるような学習を取り入れ、ファシリテーターの役割ができたか。 ☐児童生徒が主体的に学ぶ課題解決型の学習を展開できたか。 ☐児童生徒が各教科における見方・考え方を働かせ、思考したり表現したりする展開にしていたか。
提言 4 自己の学びを実感できる 授業	☐児童生徒が、学びの成果や課題を実感していたか。 (できたこと・わかったこと・わからなかったことなど) 教師は ☐児童生徒一人一人に学びの深まりや自己の変容（成長）を自覚させることができたか。 ☐一人一人の児童生徒をよく見取り、指導の改善に生かす日常的支援（評価）ができたか。
提言 5 目的意識のある 家庭学習	☐児童生徒が、家庭でも学ぶ意義を感じて学習に取り組んでいるか。 教師は ☐家庭で学びたくなる工夫を授業に組み込んだか。（家庭学習の内容等）